

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-152	高等学校	外国語	英語コミュニケーションⅡ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	CⅡ015-902	MY WAY English Communication II New Edition		

1. 編修の基本方針

本書は、英語教育を通して、次の3点を教育理念として掲げる。

1. 「ことばの教育」に資する

コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加えて、ことばを通して思考力・判断力・表現力を高め、豊かな言語観を育成する。

2. 「国際理解教育」に資する

ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、世界のさまざまな言語や民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解のための資質・能力を養う。

3. 「人間教育」に資する

今日のグローバル社会に生きる生徒たちに、英語を学びながら、人間としての生き方やものの見方、考え方、ならびに世界観に目を向けさせ、多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

英語教育は、学校教育の一環としての人間形成の教育であり、ことばの教育を教科独自の課題とし、国際理解教育に対してはとりわけ大きな役割を担っている。この認識に基づき、上記3点の教育理念を具現化するため、特に次の5点を編修の基本方針とする。

- ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。
- ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。
- 言語能力の本質としての思考力・判断力・表現力の養成を土台として、「英語コミュニケーションⅠ」における学習で習得した能力を更に伸長させながら、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。
- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する題材内容を提示すると共に、対話的な学びや深い学びを引き出す統合的かつ創造的な言語活動を目指す。
- 生徒の段階に応じて自律的な学習のための支援を提供し、主体的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力を養成する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材	①各課でとりあげた題材については、幅広く高校生の知的興味・関心を高めるものを選択し、「生きる力」を育成するに資するテーマを配置した。(第1号)	各Lesson 各課Challenge
	②物語教材においては、高校生の感性に訴える作品を配置した。(第1号)	Reading
	③個人の能力や創造性を伸ばし、個性を発揮する中で、それらを将来の生活や職業に結びつけることができるような題材の課を設けた。(第2号)	Lesson 2, 3, 5, 10
	④正義および自他の敬愛と協力など、社会への主体的な参画を扱った課を設けた。(第3号)	Lesson 3, 5, 8
	⑤生命の尊重を扱った課を設けた。(第4号)	Lesson 3, 8
	⑥自然科学、環境を扱った課を設けた。(第4号)	Lesson 3, 4, 9
	⑦日本の伝統文化および他国の文化を扱った課を設けた。(第5号)	Lesson 1, 2, 6, 7
	⑧平和を扱った課を設けた。(第5号)	Lesson 3, 5, 8
言語活動	①本課および各課末の言語活動は、取り組む生徒の個性、創造性が発揮されるようにした。(第2号)	各課Interaction 各課Practice 各課Activity Corner 各課Challenge
	②本課および各課末、課間の言語活動においては、将来の職業の選択、環境問題、社会貢献、伝統と文化の尊重、平和の問題など、自分の考えをまとめて発信できるような題材を扱った。(第1号、第2号、第3号、第4号、第5号)	各Lesson 各課Talk Together 各課Interaction 各課Practice 各課Activity Corner 各課Challenge 各Grammar for Use
	③ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して活動に取り組めるように配慮した。(第3号)	各課Talk Together 各課Interaction 各課Practice 各課Activity Corner 各Grammar for Use
付録	生徒の自律的な学習を支える付録を配置した。(第2号)	本課の学習目標一覧 二次元コード(本文および新出語音声、発音トレーニング、フラッシュカード、題材リンク集) Activity Corner 資料集
登場人物	主な登場人物の配置及び活動においては、男女・出身地域の偏りがないように配慮した。(第3号、第5号)	各Lesson 各課Listen Up 各課Interaction 各課Activity Corner
構成	教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが生徒にわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。(第2号)	各課構成 CONTENTS(もくじ) 本書の構成と使い方 本課の学習目標一覧 各課Targets!

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、題材や活動の面で配慮した。
2. 外国の文化については、英語を母語とする地域のみならず、国際理解の観点から他の地域の文化についても扱った。
3. ことばへの関心などについても、多面的に考えることができるように扱った。
4. 人間としての豊かな心や人間のもっている微細な感情を意識し、そしてまた、幅広い観点からものごとを考えることができるような習慣形成に資する題材を配置した。
5. カラーユニバーサルデザインの見地から、識別しにくい配色を避け、形や記号・番号、説明文などの補助を設けた。
6. 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-152	高等学校	外国語	英語コミュニケーションⅡ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	CⅡ015-902	MY WAY English Communication II New Edition		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列や各領域などの系統・内容に関して、特に以下のことに意を用いた。

(1)基本方針

- ①多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
- ②「英語コミュニケーションⅠ」の内容を踏まえて、「英語コミュニケーションⅡ」への接続が円滑に図られるように配慮する。
- ③5領域のバランスを重視し、総合的・統合的に英語でのコミュニケーション能力が育成できるように、構成・内容を工夫する。
- ④教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒にわかりやすく提示され、主体的・協働的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力が育成されるように配慮する。
- ⑤基礎的な知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を目的や場面、状況に応じて活用できる力を、繰り返し段階的に育成できるような教科書構成にする。
- ⑥英語の文章を読んだり聞いたりすることにより、視野を広げ、ことば・文化・人間・社会・自然などについて考えたり、多くの人と関わる経験をする中で、思考力・判断力・表現力を養えるような配慮をする。また、そうした活動・体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
- ⑦学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、活動、巻末の付録などを充実させた。

(2)本書の特色と編集上の留意点

A. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりをもたせた。

B. 題材内容

- 1) ことばの教育、国際理解教育、人間教育を題材内容の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、生徒の興味を喚起する内容にした。
- 2) 題材は、日常生活・学校生活、言語と民族、国際協力や社会貢献、比較文化、平和や地球環境、自然科学や科学技術、芸術、伝統文化、歴史、人間としての生き方など多様な内容にした。文章は、質問文と応答文、インタビュー、スピーチ、レクチャー、レポート、対話文、論説文、討論、物語など変化をもたせた。
- 3) 場面や登場人物は、英語が広く使われている現況と国際理解の課題との関係から、日本を中心に、英米を中心とした英語圏諸国、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、中南米の国および人物を配置した。

C. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮した。
- 2) 「文法事項」は、表現活動に活用することを基本として、「英語コミュニケーションⅡ」ではより発展的な項目を系統的に学習できるように提示した。
- 3) 「文構造」は、英語で言語活動を行うにあたって使用できるように、より運用度が高いものを扱った。
- 4) 各課の第1セクションでは主に「英語コミュニケーションⅠ」の復習文法項目を扱い、負担なく移行ができるように配慮した。

- 5) 「基本文」は本文右ページの「Grammar」に示し、本文からの提示とした。
- 6) 「単語」は、中学校までの既習語を2,204語、「英語コミュニケーションI」の既習語を446語とし、それ以外の語は新出語として、本課本文で扱ったものは側注または脚注、本課本文以外のものは巻末の「Word List」で示した。また、「連語・熟語」「表現」については、脚注で示した。
- 7) 「音声」については、標準的な米音を基本とした。

D. 言語活動

言語活動は、主に本課本文、「Talk Together」「Interaction」「Practice」「Activity Corner」「Grammar for Use」などで、言語の「使用場面」を考慮し、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを図れるよう配慮した。また、5領域の総合的・統合的な関連を図り、思考力・判断力・表現力を養成できるよう工夫した。「言語の働き」についても留意し、特に会話で多用される慣用的な表現について、中学校および「英語コミュニケーションI」における体験や学習を踏まえながら、基本的なものを精選して系統的に扱った。

E. 本書の構成と内容

- 1) 各課の本文は、5領域の能力の伸長を目指す総合的な教材とした。各課のセクション数は原則として3～4で構成されている。
- 2) 各課の基本文は本文右ページのGrammarで提示し、本文中には〈G〉マークで該当する文を示した。
- 3) 各ページの側注には新出語を示し、脚注には、連語・熟語、表現を示した。新出語のうち、特にコミュニケーションにおいて重要だとみなした語は、太字体（ボールド）で示した。
- 4) 各課の始めの「Targets!」では、生徒がその課での学習の見通しを立てられるようにした。また、「Listen Up」「Talk Together」「For Your Information」を設け、生徒がすでに身につけている題材の背景的知識を活性化させたり、情報を得たりするための支援とした。
- 5) 各課の問題・活動等は、セクションごとの「TF」、「Comprehension」内の「Q&A」「Summary」「Think」、「Interaction」、各課末の「Review & Retell」「Practice」「Activity Corner」で構成し、5領域の言語活動が総合的・統合的に行われるように配慮した。

「TF」は、音声による各セクションの内容理解の確認。「Comprehension」内の「Q&A」は、各セクションの内容理解の確認、「Summary」は各セクションの内容をまとめる問題、「Think」は思考力を養う問題。「Interaction」は、各セクションの内容に関連して自分の意見や考えを発信する創造的な言語活動。課末の「Review & Retell」は、本課全体の内容確認と要約、および本課の中心的なテーマを捉えるための問題。「Practice」は、新出の文法項目などの使用場面を意識した練習問題と言語活動。「Activity Corner」は、本課の題材内容に関連して自分の考えを発信する領域統合的な言語活動に資するものとした。
- 6) 各課の最後には「Challenge」を配置し、本課に関連するテーマを別の角度・視点から考えることができるようにした。また、「Write」では、テーマに関連したライティング活動を行う機会を設けた。
- 7) 課間の「Grammar for Use」では、本課で学習した言語材料を再確認しつつ、使用場面を意識した言語活動を行うことができるようにした。
- 8) 課間の「Basic Skills for Writing」では、1つの段落から複数の段落へと、段階的に書く練習ができるよう配慮した。
- 9) 課間の「Basic Skills for Speaking」では、意見を伝え合う、意見を引き出す、討論する、など段階的に議論の練習ができるよう配慮した。
- 10) 課間の「Sounds」では、子音や母音の発音、強勢、リズム、イントネーション、ポーズ、世界の英語を扱った。
- 11) 課間の「Vocabulary Building」では、語彙の性質を多角的に考察し、語彙力をつける一助とした。
- 12) 課間の「Across Subjects」では、教科横断的な学習、活動ができるよう配慮した。
- 13) 巻末付録に、「Activity Corner」の音声スクリプトおよび資料集を設け、言語活動の参考に資した。また、「WORD LIST」「IDIOM LIST」を提示し、新出語（756語）を掲載し、初出ページを示した。

2. 対照表

	図書の構成・内容（●＝LESSONなど ○＝課間 ◎＝付録）	学習指導要領の内容
音声	●新出語（側注） ・新出語には発音記号を付した。 ○Sounds ・子音と母音の発音、強勢、リズム、イントネーション、ポーズ、世界の英語を扱った。	(1)ア (ア)(イ)(ウ)
句読法	●Lesson、Reading コンマ、ピリオド、コロン、セミコロン、ダッシュなど主な句読点は本文内に配置し、適切に取り扱った。	(1)イ (ア)(イ)(ウ)
語、連語及び慣用表現	●Lesson、Reading ・新出語および連語・熟語、慣用表現などは側注および脚注で示した。また、本文は現代の標準的な英語を基本とした。 ○Vocabulary Building 日英の単語の対応、同音異義語、英米語の違いについて語彙定着の一助となるよう提示した。 ○Across Subjects 他教科において使用される語彙定着の一助となるよう提示した。 ◎WORD LIST、IDIOM LIST 本文中に出てくる新出語、連語・熟語について、アルファベット順に掲載し、初出ページを示した。	(1)ウ (ア)(イ)(ウ)
文構造及び文法事項	●Lesson（本文、Grammar、Practice） ・文構造、文法事項は、運用度の高いものを言語活動と効果的に関連づけることを考慮し、1課に偏らないよう満遍なく配置した。また、実際にコミュニケーションの中で活用できるような形式で提示し、定着を確認できる課題を配した。 ・各課の第1セクションは主に「英語コミュニケーションI」の復習とし、負担のない移行に配慮した。 ○Grammar for Use 本課で取り上げた文法事項をまとめ、例文と解説を掲載し、理解をより深められるようにした。	(1)エ (ア)(イ)
（聞く・読む） 言語活動①	●Lesson（本文、TF、Q&A、Summary、Interaction、Think、Activity Corner、Challenge） ・本文を聞いたり読んだりして、目的や場面、状況に応じて、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを捉え、自分の考えをまとめる。 ●Reading（本文、Comprehension） ・本文を聞いたり読んだりして、概要や要点、書き手の意図などを捉え、自分の考えをまとめる。	(2)ア
（話す・書く） 言語活動②	●Lesson（Talk Together、Interaction、Think、Review & Retell、Activity Corner、Challenge） ・伝える内容を整理し、目的や場面、状況に応じて、要点や意図などを明確にしながら、話したり書いたりして情報や自分の考えなどを伝え合う。 ●Reading（Comprehension） ・本文内容について、話したり書いたりして自分の考えなどを伝え合う。 ○Grammar for Use ・伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、話したり書いたりして情報や自分の考えなどを伝え合う。	(2)ウ
（領域統合型） 言語活動③	●Lesson（Interaction、Activity Corner、Challenge） ・領域統合的な活動として、聞いたり読んだりした内容を活用しながら、話したり書いたりして情報や自分の考えなどを表現する。また、話したことを整理して自分の考えを書いたり、書いたことをもとに発表したりする。	(2)イ
聞くこと	●Lesson ・Listen Up：課の題材についての英文を聞き、概要や要点、詳細を把握する。 ・本文：英文を聞いて必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する。 ・TF：本文内容に関する英文を聞き取る。 ・Q&A：本文の内容理解に関する音声を聞き取る。 ・Activity Corner：対話を聞いて必要な情報を聞き取り、概要や要点、話の展開を把握する。その内容をもとに考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う。 ・Challenge：題材を違う角度から捉えた内容の英文を聞く。 ●Reading：物語を聞いて概要や要点、詳細、話し手の意図などを捉える。	(3)① ア イ(ア)(イ)

読むこと	●Lesson - 本文：英文を読んで必要な情報から文章の展開や書き手の意図を捉え、概要や要点、詳細を把握する。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う。 - Q&A：本文から読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う。 - Review & Retell：本文内容の概要や要点、詳細を捉える英文を読む。本文から読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う。 ●Reading：物語を読んで概要や要点、文章の展開や、書き手の意図などを捉える。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う。	(3)① ア ウ(ア)(イ)
話すこと「やり取り」	●Lesson - Talk Together：課の題材に関して、情報や自分の知識、考えなどを即興で話して伝え合う。 - Interaction：本文の内容について、自分の考えや気持ちなどを詳しく話して伝え合う。 - Practice：日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを詳しく話して伝え合う。 - Activity Corner：課の題材に関して聞いた対話や本文内容を踏まえて、自分の考えや気持ち、賛成や反対の意見などを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う。また、その内容を整理して書いたり発表したりする。 - Lesson 10 Activity：社会的な話題について、自分の考えや気持ち、賛成や反対の意見などを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う。 ○Grammar for Use：日常的な話題について、情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合う。 ○Basic Skills for Speaking：多様な語句や文を用いて、論理的に意見を伝え合う。	(3)① ア エ(ア)(イ)
話すこと「発表」	●Lesson - Practice：日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを詳しく話して伝える。 - Activity Corner：課の題材に関して聞いた対話や本文内容を踏まえて、自分の考えや気持ちなどを、多様な語句や文を用いて、理由や根拠とともに詳しく話して伝える。また、その内容について質疑応答を行ったり、意見や感想を伝え合ったりする。 - Lesson 10 Activity：社会的な話題について、自分の考えや気持ち、賛成や反対の意見などを理由や根拠とともに詳しく話して伝える。 ○Grammar for Use：日常的な話題について、情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく話して伝える。 ○Basic Skills for Speaking：多様な語句や文を用いて、相手の意見を確認しながら討論をする。	(3)① ア オ(ア)(イ)
書くこと	●Lesson - Interaction：本文の内容について、自分の考えや気持ちなどを書いて伝える。 - Practice：日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを詳しく書いて伝える。 - Activity Corner：課の題材に関して聞いた対話や本文内容を踏まえて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく書いて伝える。また、その内容について質疑応答を行ったり、意見や感想を伝え合ったりする。 - Challenge：本文の内容について、情報や自分の考え、気持ちなどを理由や根拠とともに書いて伝える。 - Lesson 10 Activity：社会的な話題について、自分の考えや気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく書いて伝える。 ○Grammar for Use：日常的な話題について、情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく書いて伝える。 ○Basic Skills for Writing：情報や自分の考えなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える。	(3)① ア カ(ア)(イ)
言語の使用場面・働き	●Lesson（本文、Interaction、Practice、Activity Corner、Challenge）、Reading（本文） 言語の使用場面や言語の働きについて、各単元で取り扱うよう適切に配置した。	(3)② ア(ア)(イ)(ウ) イ (ア)(イ)(ウ)(エ) (オ)

※配当時間については、別紙カリキュラム表を参照。

カリキュラム表

L = LESSON, C = Challenge, R = Reading

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面	はたらき	L	S や	S 発	R	W	配当 時間
L1	Food Culture Around the World	SVO (O=that/what節) / SVO (O=if/whether節) / SVO1O2(O2=that/what/if節)	食、異文化 / ウェブサイト	提案する 説明する	○	○	○	○	○	4
	C How to Enjoy Yum Cha		雑誌記事		○			○	○	1
Basic Skills for Writing 1		つながりことばを使ってパラグラフを書こう							○	0.5
Basic Skills for Speaking 1		論理的に意見を伝え合おう				○				0.5
L2	Katsura Sunshine —Making the World Laugh	形式主語のit / 形式目的語のit① / 形式目的語のit②	日本文化、比較文化 / インタビュー・学校生活	話題を発展させる 説明する	○	○	○	○	○	4
	C Sunshine's Funny Little Story		買物		○			○	○	1
Grammar for Use		Lesson 1, 2のまとめ				○	○		○	1
Sounds 1		子音・母音の発音、語句や文の強弱			○					0.5
Vocabulary Building 1		日本語と英語の対応					○			0.5
L3	Living with Nature —Takita Asuka's Journey	現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了形 / 過去完了進行形	共生、平和 / 講演・学校生活	心配する 理由を述べる	○	○	○	○	○	4
	C Nakamura Tetsu —A Respected Doctor		雑誌記事		○			○	○	1
Across Subjects 1		Math				○				0.5
Across Subjects 2		Biology				○				0.5
L4	"Unpleasant Designs"	SVOC (V=知覚動詞、C=動詞の原形) / SVOC (V=使役動詞、C=過去分詞) / help+O+動詞の原形	生活、デザイン / 雑誌記事	理由を述べる 褒める	○	○	○	○	○	4
	C Piano Stairs for Better Health		雑誌記事		○			○	○	1
Grammar for Use		Lesson 3, 4のまとめ				○	○		○	1
Basic Skills for Writing 2		複数のパラグラフで書こう(基本構成)							○	0.5
Basic Skills for Speaking 2		意見を引き出す質問をしよう				○	○			0.5
L5	From Landmines to Herbs	関係代名詞(主格) / 前置詞+関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞の非制限用法	平和、異文化 / 雑誌記事・地域での生活	提案する 説明する	○	○	○	○	○	5
	C Study Tour in Cambodia: Participants Wanted!		ウェブサイト		○			○	○	1
Sounds 2		リズム、イントネーション、ポーズ、世界の英語			○			○		0.5
Vocabulary Building 2		単語の中心的な意味					○			0.5
L6	Dances Around the World	助動詞 / 助動詞の過去形を使った表現 / 助動詞+have+過去分詞 / 完了不定詞	ダンス、比較文化 / レポート・学校生活	相づちを打つ 主張する	○	○	○	○	○	5
	C Cheer Dance Club: Welcomes New Members!		ポスター		○			○	○	1
Grammar for Use		Lesson 5, 6のまとめ				○	○		○	1
Across Subjects 3		Geography				○				0.5
Across Subjects 4		Home Economics				○				0.5
L7	"Englishes" in the World	分詞構文 / 受け身の分詞構文 / 完了形の分詞構文 / 付帯状況のwith	言語、異文化 / 講演・学校生活	助言する 理由を述べる	○	○	○	○	○	5
	C Local Varieties of English		ブログ		○			○	○	1
Basic Skills for Writing 3		複数のパラグラフで書こう							○	0.5
Basic Skills for Speaking 3		意見を確認しながら討論しよう				○	○			0.5
L8	Sesame Street	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter+疑問詞	多様性、異文化 / 雑誌記事・学校生活	聞き直す 説明する	○	○	○	○	○	5
	C Barbapapa		発表		○			○	○	1
Grammar for Use		Lesson 7, 8のまとめ				○	○		○	1
L9	Washing Away Greenwashing	同格を表すthat節 / 強調構文 / 省略 / 倒置	環境、社会 / 対話・日常生活	提案する 理由を述べる	○	○	○	○	○	5
	C First Riverside Park Plogging!		雑誌記事		○			○	○	1
Grammar for Use		Lesson 9のまとめ				○	○		○	0.5
Vocabulary Building 3		アメリカ英語とイギリス英語							○	0.5
L10	Living in an E-Society —The Pros and Cons		デジタル社会 / 討論・日常生活	主張する 賛成する 反対する 理由を述べる 共感する	○	○	○	○	○	4
	Pros and Cons of an Esports Club	Ebooks vs. Printed Books								
	Activity					○	○		○	2
R	The Little Prince		物語 / 本	描写する	○	○	○	○	○	6
Activity Corner スクリプト、Activity Corner 資料集、WORD LIST、IDIOM LIST										

合計 74